

子育て支援

高内康幸議員（友志会）

問 本市の子育て支援策の幅広いPRを求めたい。病児・病後児保育の現状はどうか。地域での子育て環境づくりの取組み状況と支援充実への考え方を伺う。

答 市本ホームページに保育所のご案内、つどいの広場、児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当、ひとり親家庭等医療費の助成、保育料第3子以降無料化事業などの情報を掲載している。また、広報そうさへの掲載や、当該世帯に対し文書を直接郵送している。

病児・病後児保育を実施している保育所はないが、「匝瑳市子ども・子育て支援事業計画」で「仕事等の都合により家庭で保育することが困難な保護者の負担

につき、平成27年11月までの実績で「つどいの広場」を週3回、1階は特定健康診査や各種がん検診等で11月までに20回、ロビーを含めたほぼ全体を利用している。この他に各種団体が会議等で10回程度利用している。

平成28年度は、2階は「つどいの広場」

野栄福祉センター

林明敏議員（市民クラブ）

問 野栄福祉センターの利用状況について

答 平成27年11月までの実績で「つどいの広場」を週3回、1階は特定健康診査や各種がん検診等で10回程度利用している。この他に各種団体が会議等で10回程度利用している。

平成28年度は、2階は「つどいの広場」

として利用し、1階は特定健康診査や各種

がん検診、会議等で利用するとともに、新

たに1階東側の旧診察室を訪問看護ステー

ションつばきの里のサテライトとして利

用する予定である。



▲新たにつばきの里のサテライトとなる
野栄福祉センター

地方創生

武田光由議員（公明党）

問 スマートフォンで子育て支援情報を取得できる子育て応援アプリを、本市も検討推進してはどうか。

答 子育て応援アプリは、スマートフォンで子育て支援情報を取得でき、情報伝達手段として一層の充実が図られると考える。

平成27年8月から県が

配信を開始したスマートフ

ィルダイアリー」に本市の

子育て支援情報を登録し、

必要な情報を探してお

る。

この「ちばマイスタイル

ダイアリー」は、結婚から

妊娠・出産・子育てまで支

援し、県や市町村からの情

報や、健康・育児に関する

相談受付などを実行するスマ

ートフォンアプリである。

今後も子育て世代に必要

な情報を提供できるよう、

スマートフォンアプリを有

効的に活用していきたい。

教育

増田出男議員（友志会）

問 小学校の児童数が減少してあり、大規模校と小規模校の交流をすべきと考えるが、当局の見解を伺う。

答 学校教育では、児童生徒が集団の中で多様な考え方触れ、切磋琢磨する中で資質や能力を伸ばすことが重要であり、一定の集団規模であることが望まれる。

本市では、全年生が2学

級ずつある小学校は八日市

場小学校1校だけであり、

ほぼ全ての小学校が小規模

校である。小学校体育大会

や小中音楽会、ミニバス、

綱引き、ドッジボールなど

の行事を行い、学校間の交

流を図っている。

健康

都察広一議員（友志会）

問 本市の成人病及びその予備群の統計について伺う。平成26年度の特定健診等では、メタボリックシンドrome該当者が

17・5%、その予備群が8・8%であった。血糖・血圧・脂質の数値が

高く、生活習慣の改善を

必要とする人が目立つ。

国は国民の健康づくり

を推進する上で適切な内

容の施設を健康増進施設

として認定しており、県

内では6施設が認定を受

けている。

本市には健康増進施設

組織で、

設置されている。

平成26年度には、生

活習慣病との予備群の

382人に対し個別面談

を行い、個々の状況に応

じた、柔軟できめ細かな

支援を行っている。

また、今年度から特定

健診の対象年齢を40歳

以上から35歳以上に引

き下げ、生活習慣病の早

期発見、早期予防に取り

組んでいる。

平成26年度には、フジテ

レビやNHKで取り上げら

れるとともに、本市の農業

まつりでは、宍粟市職員に

よる特産品販売が行われ

た。

昨年11月には宍粟市を

訪問し、「災害時等相互応

援に関する協定」を締結

た。

本年度は10月25日に宍

粟市市制施行10周年記念

式典に招待いただいた。

また、11月の農業まつ

りでは、本市観光協会と宍

粟市の「道の駅みなみ波

賀」が協力し、宍粟市の特

産品販売を実施した。